

リーダー☆インタビュー



株式会社キットセイコー 代表取締役 田邊 弘栄 氏



「従業員一人一人が会社に求めるものは異なりますので、それぞれの思いに寄り添い『ずっとこの会社で働きたい』と思っていただける会社にしていきたい」と語る田邊社長

創業から85年、用途や使用環境に合わせた材質・形状の特殊ネジ製造で、多くの分野で活躍する3代目の田邊社長に話を伺いました。

★貴社の概要について、教えてください。

田邊 1940年に祖父が株式会社田辺製作所として創業しました。中島飛行機(現SUBARU)からの依頼でゼロ戦や工具の部品を手づくりしていました。戦時中は“どんどん作れ”という時代で、従業員が200人を超えていたと聞いています。

その頃はソニー、松下、日立などのメーカーに向かってネジを量産していましたが、創業者は、「量産は、納期とコストが最優先され固有技術が衰退し、景気が悪化し、仕事が減ったときに立ち行かなくなる」と考え、1970年代から少量多品種生産へと、かじを切りました。高度経済成長期の“作れば売れる”時代に、少量多品種を専門とする企業は珍しく、あえて“効率”より“技術”を選んだこの信念が、今に續く当社の原点です。

当社の特殊ネジは、鉄道信号、エネルギープラ

ント、航空宇宙、半導体など、多くの分野で使われています。10年ほど前から、F1(フォーミュラー1)にも使われるようになりました。航空宇宙分野の国際展示会へ出展したことがきっかけで、ご支援いただいた埼玉県産業振興公社さんに大変感謝しています。

★貴社は人工衛星「はやぶさ」のプロジェクト参画で有名ですね。

田邊 最初に人工衛星の部品を手掛けたのは1970年です。国内の大手メーカーからの製造依頼でした。日本初の人工衛星ということで、当時のJIS規格にもない小型ネジを図面から試作を重ねて完成させたのが始まりです。それ以来、多くの人工衛星に当社の特殊ネジが使われていますが、極秘プロジェクトのため、世間に知られることはなかったです。2010年に、人工衛星「はやぶさ」の部品を手掛けた企業として、JAXA(宇宙航空研究開発機構)がプロジェクト参画企業を公開したこと、注目されるようになりました。



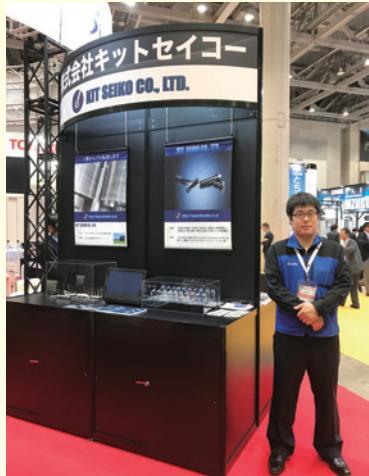
宇宙事業用ネジで世界をけん引



1本から製作する宇宙事業用ネジ



製品1本ずつを丁寧に検査



国際航空宇宙展での自社ブース



すべて材質の異なる同形状のネジ



製造マイスター(ベテラン技術者)による若手従業員への指導

当社は、特殊ネジを1本から製作します。ホームセンターに並ぶような汎用品ではなく、用途や使用環境に合わせた特殊な材質・形状の特注品です。お客様の期待に応えられる高い技術力が当社の強みです。

★技術継承をどのようにお考えですか？

田邊 私が入社を決意したきっかけこそ、まさに技術継承問題でした。約30年前、大学生だった私は、卒業後は海外でさまざまな経験をしたいと考え、渡航資金をためるため、父が経営していた当社でアルバイトを始めたのですが、若い従業員がおらず、私が子どものころ若手だった従業員は既に定年間近でした。「このままでは技術が途絶えてしまう」と思い、海外行きを諦めました。入社後は、新たに従業員を採用し、技術を継承することに苦労しつつも工夫を重ねながら取り組みました。

技術継承について、今一番に思うのは、「人が辞めない会社をつくること」です。良い人同士が集まれば、良い仕事ができるし、互いに気持ちよく

働けます。良い関係が続ければ長く働いていただけて、ベテランと一緒に仕事をする時間が増えるので、特段の仕組みがなくても自然に技術は受け継がれます。働く期間が長くなれば継承の頻度も減り、人手不足のリスクも小さくなります。

そのために、当社では業務量を80%程度に抑えるようにしました。今日やるべき80%の業務が完了したら、まだ終わっていない仲間を手伝い、全員が残業せずに帰れる仕組みです。助け合いの精神が育まれ、職場の人間関係も良好になります。以前は、生産性向上を目指して、自分も含め120%の業務を課したこともありましたが、かえって残業や疲弊を招き、生産性は上がりませんでした。

★今後の展開・抱負は

田邊 これまでの宇宙事業はJAXAなどの国が主体でしたが、これからは民間の宇宙ベンチャーが台頭してくると思います。私たちはこれまでの豊富な経験と実績を持っていますので、安心して任せいただける存在であり続けたいです。

(敬称略)